

# さとまる 通信

2024 春夏号



島開きの春

## 鬼太鼓に 逢いに行こう

# 14

島開きの春

# 鬼太鼓に逢いに行こう



## 春日鬼組

太鼓の音も軽やかな  
春日町の鬼太鼓で春を祝う

「1931年(昭和6年)に、当時の青年会が鬼太鼓で春日神社の祭りを盛り上げようと、隣町の両津夷7ノ丁から指導者を招いて始まったと聞いています。」と春日町の鬼太鼓について話してくれたのは、春日鬼組の「組頭(くみがしら)」を務める中川知久さん。現在50人近くいるメンバーをまとめています。鬼太鼓団体の高齢化に悩む団体が多い中、鬼の舞手ができる高校生以下の若者が15名もいるというから驚きです。

その理由として慣習にとらわれない柔軟な姿勢があります。

「他の地域の人でも女性でも、鬼太鼓をやりたいという気持ちがあれば、どなたでも大歓迎で受け入れています。20年前にアメリカ カルフォルニア州からの希望者を受け入れ、ワークショップや祭りの参加などの交流を重ねた結果、2016年に海外初の鬼太鼓組「北米春日鬼組」が結成されました。今でも祭りになると来島しますし、アメリカでも様々なイベントで鬼太鼓を披露して現地の人々を魅了しているそうです。」

鬼の舞手や太鼓の裏打ち、提灯持ちと、女性だけで鬼太鼓を組めるのも春日鬼組の魅力です。



「春日鬼組 組頭」  
中川知久さん  
鬼の舞手としても定評があり、現在は後進の育成に力を入れています。



フットワークの軽さも強みで、島内外のイベントにも積極的に参加して佐渡の魅力発信に貢献しています。

春日神社の祭りは毎年4月14日に行われます。早朝、神社で舞を奉納した後、2組に別れて町内約220軒を門付けて回ります。

春日の鬼太鼓は、軽快な太鼓の音に乗せて跳ねるように舞い踊ります。港町らしい勢いのある鬼太鼓です。

「祭りの1か月前から鬼太鼓の準備を始めます。その年にデビューする“新鬼”の子どもたちも、この日から稽古を行います。鬼太鼓の舞は複雑ですが、小さい頃から見ているのでリズムが自然と身についているようです。春日町は雄鬼と雌鬼、そして雌鬼から変化する「糸取り」の3つの舞があります。高度な「糸取り」を踊れるようになるには、練習の積み重ねと経験が必要になりますが、まずは鬼太鼓を楽しんでほしいです。」チームワークが良くファミリーのような雰囲気なので、子どもたちも伸び伸び打ち込めるのでしょう。

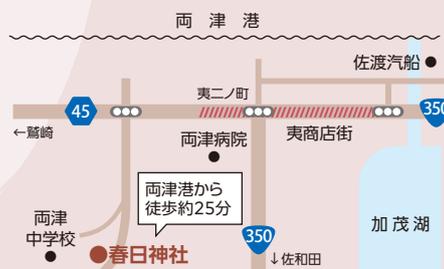
鬼組だけでなく春日町の住民も鬼太鼓に対する思いは熱く、コロナ禍においても、多くの集落が祭りを中止する中、場所を限定しての門付け

など大幅に縮小しながらも休まずに続けました。町が一丸となって祭りを盛り上げています。今年4月14日は日曜日。「せっかくの休日開催なので島外の方にもぜひ見に来てほしいですね。佐渡の春を感じながら鬼太鼓と一緒に春日の町を巡りませんか？」



### 春日神社 例大祭 2024年4月14日(日)

- 神社打ち出し……………6:00(予定)
- 町内の観音堂で終了…22:00頃



春日鬼組の鬼太鼓面。黒系で口を閉じているのが雄鬼、赤や白の明るい色で口を開けているのが雌鬼です。

4月15日を中心に、島内各地で春祭りが行われます。

多くの集落では、受け継がれた鬼太鼓が神社に舞を奉納し、

その後、集落の家々を門付け\*して回ります。

今回は、個性が光る2つの鬼太鼓を紹介します。

桜も満開🌸島が色づく春、

鬼太鼓を見に佐渡へ遊びに来ませんか？

\*門付け／集落の家一軒一軒を回り、玄関先で鬼太鼓を舞う儀式。縁起物とされ、門付けを受けた家は花代(ご祝儀)をふるまう。

# おぐら ものべ 小倉物部神社 若者 魂を揺さぶる唯一無二の舞、 小倉の鬼太鼓

小佐渡の山里に佇む「小倉物部神社」。物部氏ゆかりの格式高い神社です。その氏子である「小倉物部神社若者」が鬼太鼓を担っています。

1匹ずつ順に登場する両津や国中の鬼太鼓とは異なり、2匹同時に鬼が舞う小倉の鬼太鼓。太鼓と笛の音に合わせて3分間、前後左右に激しく飛び跳ねます。

勇猛さと優雅さを兼ねそろえた小倉の鬼太鼓は佐渡屈指の人気を誇ります。

「小倉では2匹の鬼と太鼓の裏打ち、横笛、とりまとめの役員などで形成する1つの太鼓のまとまりを“唐(から)”と呼びます。集落内に4つの神社があった名残で、かつては4唐の鬼太鼓がありましたが、現在は3唐で行っています。」(藤原さん)

小倉物部神社若者は18歳から45歳までの男性で構成されていて、最初に白髪の鬼、次に黒髪の鬼を担当し、その後に裏打ち、そして役員へと進みます。

「子どものころは花形の鬼に憧れますが、やがて太鼓の裏打ちの難しさや面白さを知り、そして唐をまとめる役員の大切さを学びます。唐での経験が、地域づくりや自身の成長に役立っています。」(松本さん)

小倉の人たちにとって鬼太鼓にかける情熱は並々ならぬものがあります。

「小倉小学校があった頃は、授業で鬼の面を作ったり鬼太鼓合宿を行ったり、学校と地域が一体となって鬼太鼓の継承に取り組んでいました。」(藤原さん)



小倉物部神社若者：左から小林 流さん、松本 隆さん、藤原 宏道さん

鬼太鼓に対して目や耳の肥えた小倉の人たちに認めてもらうには、才能もさることながら練習の積み重ねが重要です。

「3月に入ってから全体で練習を始めますが、終わった後に先輩を追いかけて個別に教えてもらったりしていましたね。」(藤原さん)

松本さんと小林さんは同級生。小学3年生の時に転校してきた小林さんは、小倉の鬼太鼓に特別な思いがあるそうです。

「普段遊んでいる友達が鬼太鼓を堂々と舞う姿に衝撃を受けました。高校卒業後に島を出て、そして戻ってきて、改めて小倉の鬼太鼓は特別なものだ実感しました。」(小林さん) 祭り以外では地域の行事程度しか披露されない小倉の鬼太鼓。

門付けを終えた3唐の鬼太鼓が、神社前で一斉に舞う宮入の鬼太鼓は圧巻の一言です。

「1日中舞い踊ってへとへとですが、神社への奉納は特別なもの。鳥居をくぐると気持ちが引き締まります。」(松本さん)

小倉鬼太鼓が織りなすスペクトルな感動をぜひ目の前で体感してください。

門付けでいただいた草花を太鼓に活けていきます。まるで花のアート作品のよう。



## 小倉物部神社 例大祭

2024年4月13日(土) その年の4月第2土曜に開催

- 神社打ち出し…5:00(予定)
- 宮入……………19:30頃



ハナちゃんの写真集をきっかけに  
佐渡 鷲崎の豊かな暮らしを知ってほしい

僧侶、写真家 ルポライターと、多彩な顔を持つ梶井照陰さん。  
最新刊のフォトエッセイ集「お寺のハナちゃん」(リトルモア)が話題の  
梶井さんに、観音寺のある鷲崎での暮らしや柴犬のハナちゃんについて  
伺いました。

寒ブリ漁で有名な鷲崎漁港を見渡す高台に建つ高野山真言宗 寶鷲山(ほうしゅうざん)観音寺。住職の梶井照陰さんは新潟市の出身です。「この観音寺は父の実家です。子どもの頃、佐渡に来るたびに住職の祖父に連れられて檀家回りをしていました。お寺の仕事も覚えて檀家の人たちとも顔なじみになり、思えば跡継ぎにと祖父から刷り込まれていたような気がします。」と笑います。仏門の道に進むことを決め、大学卒業後に高野山で修行。そして24年前に“孫ターン”で佐渡に移住し、祖父の他界後に跡を継ぎ、祖母のミサホさんとともに寺を守ってきました。佐渡の北端 鷲崎は、島内でも過疎高齢化が進んでいる地域です。「かつては人口も多く活気がありましたが現在は限界集落です。檀家さんも少なくなり、寺の回りも空き家が目立つようになりました。」近くに生鮮食料品を扱う店もないため、他の住民同様に、梶井さんも田んぼや畑、そして船で魚釣りなど自給自足に近い生活を送っています。勤行や仏事を行いながらの作業は大変ですが、取れたての魚や野菜を味わえるという食の恵みに感謝する日々だそうです。写真家、ルポライターとしても精力的に活動していて、2004年に発刊した「NAMI」で日本写真協会新人賞を受賞するなど、その実力は高く評価されています。



高野山真言宗 寶鷲山 観音寺



佐渡 観音寺住職・写真家 梶井 照陰(かじいしやういん)さん

最新刊の主演、柴犬のハナちゃんを家族に迎えたのは、ミサホさんの認知症がきっかけでした。「祖母の面倒を見る日々に行き詰まりを感じ、犬を飼いたいと思っていたところにハナと出会い、佐渡に連れてきました。」縄張り意識の強い性格のハナちゃんでしたが、梶井さんやミサホさんにはすぐに懐きました。ハナちゃんとの暮らしを自身のSNSに投稿していたところ、畑や船上で見せるハナちゃんの伸び伸びとした姿が話題となり、ネットニュースにもなりました。「写真は全てスマートフォンで撮影しています。当初は、単に近況報告としてSNSに上げるだけでしたが、思った以上の反響があり、書籍のお話をいただきました。」ハナちゃんと集落の人たちとのやりとりをユーモラスに愛情深く切り取っていて、何気ない日々の暮らしが、梶井さんのフィルターを通すととても魅力的に見えてきます。2023年に他界したミサホさんとの思い出も綴られ、読後はほっこりとした優しい気持ちになります。「本やSNSを通して、鷲崎の豊かな暮らしを知ってもらえたら嬉しいです。」梶井さんとハナちゃんの日々、ぜひチェックしてみてくださいね。



正月の春祈祷。朝早くから檀家を回り供養を行います。



どんど焼きなど集落行事にも積極的に関わっています。



ハナちゃん、待ちに待った散歩タイム。梶井さんを見上げる目も嬉しそう。



梶井さんの名を一躍有名にした写真集「NAMI」と話題の最新刊「お寺のハナちゃん」

梶井照陰 @syoinakaji  
<https://twitter.com/syoinakaji>

高台のお寺からは日本海、そして新潟や山形の山々を見渡せます。